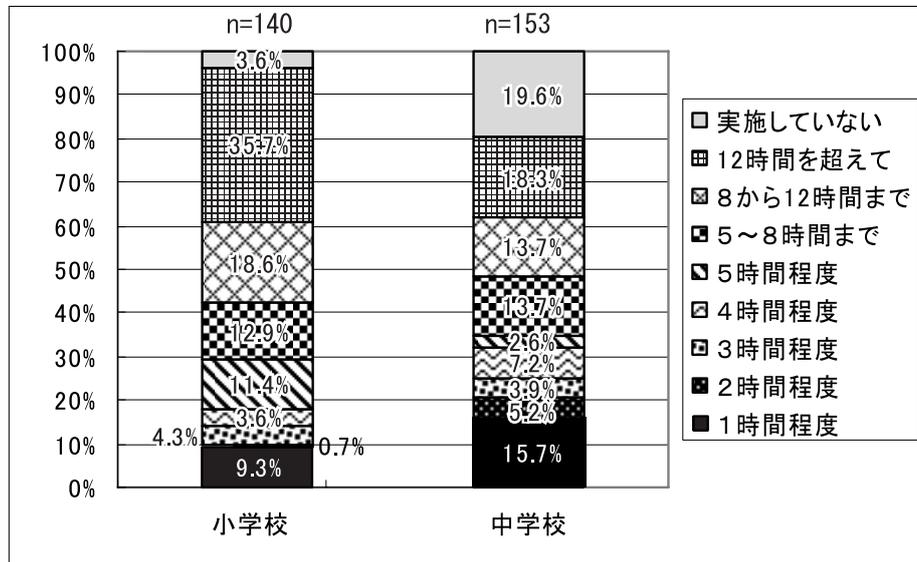


8. 情緒障害特殊学級

(1) 交流及び共同学習の実施状況について

①実施状況

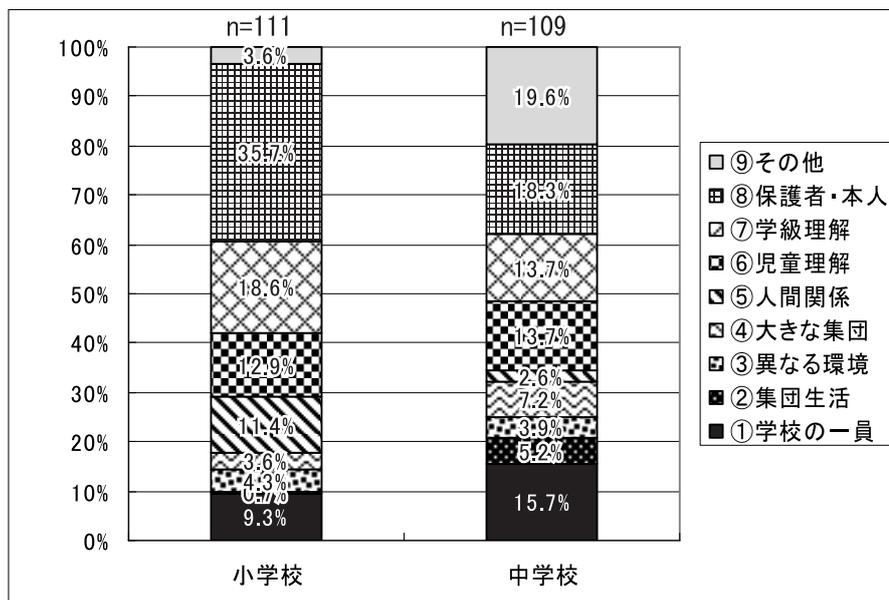
図Ⅲ8-1に、情緒障害特殊学級に在籍する児童生徒の交流及び共同学習の実施状況を示した。



図Ⅲ8-1 実施状況

小学校では約36%の児童が、中学校では約18%の生徒が12時間を超えて実施している。8時間以上実施している児童生徒は、小学校では約55%、中学校では約32%となっている。小学校では、実施していない児童が約4%、中学校では約20%となっている。小・中学校を比較すると、小学校の方が実施の時間数が多い児童生徒が多いことが示されている。

②目的・ねらい



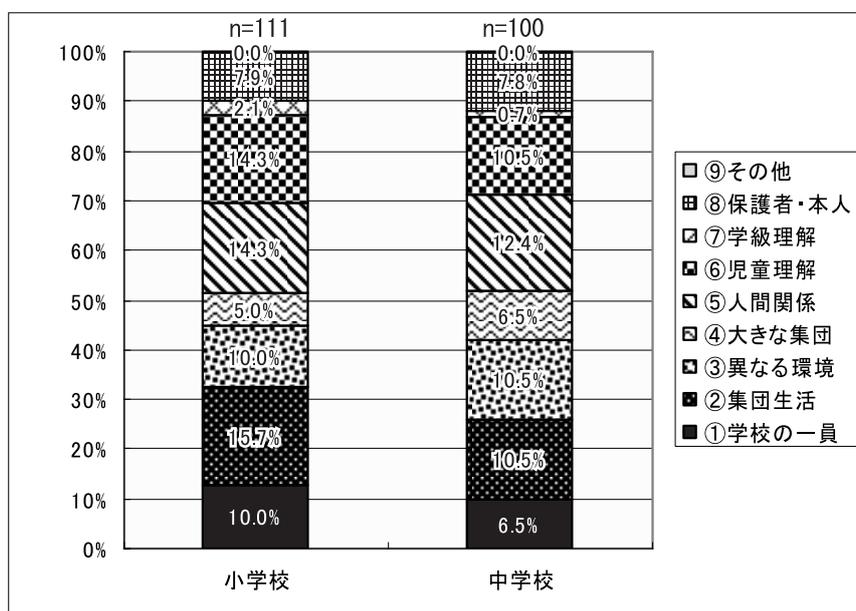
図Ⅲ8-2 目的・ねらい

図Ⅲ 8 - 2 に、情緒障害特殊学級における交流及び共同学習の目的・ねらいについて、その他を含む 10 項目の選択肢の中から、特に重要と思われるものを 3 つ回答してもらった。

小・中学校ともに、保護者や本人のニーズに応える項目の回答が多く、続いて、特殊学級について理解を求めるとや特殊学級の児童生徒への理解を求めるとの回答が多い。中学校では、学校の一員としての確認の項目の回答も多い。

③ 成 果

図Ⅲ 8 - 3 に情緒障害特殊学級における交流及び共同学習の成果について示した。これは、その他を含む 10 項目の選択肢の中から、あてはまるものを 3 つ回答してもらったものをまとめたものである。



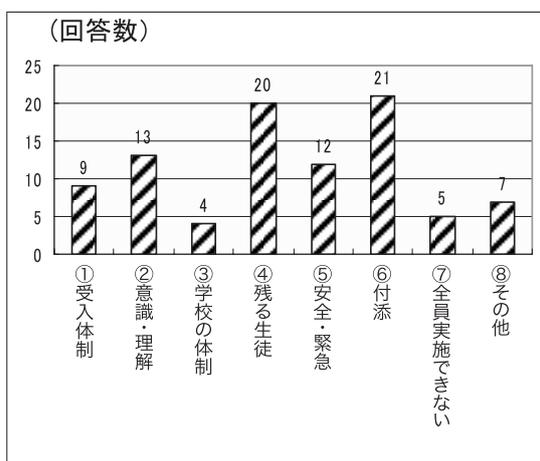
図Ⅲ 8 - 3 成 果

目的・ねらいとは異なり、小・中学校ともに、児童生徒への理解が進んだこと、校内でのつながりや人間関係が形成されてこと、集団生活での社会性が培われてことなどを回答する割合が高くなっている。

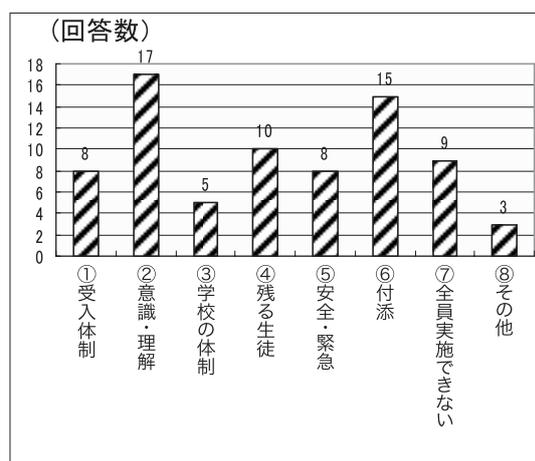
④ 課 題

図Ⅲ 8 - 4 図Ⅲ 8 - 5 に、情緒障害特殊学級における交流及び共同学習の課題について示した。これは、その他を含む 10 項目の選択肢の中から、あてはまるものを全てを回答してもらったものである。

小学校では、学級に残る児童への対応、中学校では、生徒の意識や理解の項目が多く選択されている。小・中学校ともに、交流に伴う付き添いの課題が多く回答されている。



図Ⅲ 8 - 4 小学校の課題



図Ⅲ 8 - 5 中学校の課題

(2) Aさんに対する配慮の実際

次の3つの条件にある児童生徒1人(以下Aさんと記す)を選び、Aさんに対する交流先での配慮の実際について記述してもらった結果をまとめた。3つの条件とは、通常の学級との交流で、教科学習の経験がある、在籍する児童生徒のうち、もっとも高学年である、障害種別や程度は問わない、であった。自由記述を整理し、特徴的な回答内容を以下に抜粋して列挙する。

① Aさんに対する配慮

事前に学習内容やスケジュールを知らせることなどの個別に行うなど障害特性に対応した配慮が挙げられている。教室ではカードや板書等を工夫し一日の流れを視覚的に提示するなどを工夫していることが挙げられている。授業では全体への指示の後個別に指示をする等の配慮が挙げられている。

② 環境・設備面での配慮

- ・ 座席位置や机やロッカー、靴箱等の配置に工夫
- ・ 静かな環境、集中しやすい環境作りなどの工夫が挙げられている。

③ 集団参加への配慮

交流先の学級の児童にAさんの障害や特性について説明し理解を得ること、個々の児童生徒にAさんとの付き合い方を知らせ、配慮を求めること、気の合う友人とのグループでの活動を工夫することなどが挙げられている。また、担任にAさんへの接し方について説明し、配慮をお願いすることなどが挙げられている。

(松村 勘由)

